

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ナカミチ児童デイサービス本町田		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数) 22人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 11人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室内が複数の部屋に分かれているため、活動内容や児童の特性、状況に応じて、空間の区分けを行うことが出来る。	活動内容や児童の状況に応じて、室内をいくつかの活動エリアに分割することにより、集団の中でも落ち着いて過ごせるよう工夫している。また、気持ちの切り替えや一人の時間を必要とする児童が周囲の刺激を遮断して落ち着けるよう、ロールスクリーンを使用して半個室になるエリアを設けている。	利用児童が多い場合であっても、一人ひとりの占有できるスペースを十分に確保出来るよう、机等の配置場所や児童の荷物の置き場所、動線の見直しを継続的にを行い、環境構成をさらに進めていく。
2	毎日の集団レクリエーションや月毎の制作活動、調理活動、季節の行事、屋外活動等のバリエーション豊かなプログラムを展開することにより、様々な体験機会が提供できるように支援を行っている。	制作活動では調理活動では手先の動きを促す「微細運動」を、運動遊びや屋外活動等では身体全体を大きく動かす「粗大運動」の促進を意図し、楽しみながらも発達をサポート出来るような内容を工夫している。また、季節の行事や制作活動、調理活動を取り入れ、五感で四季を感じられる機会を作ったり、作品の完成や料理の出来上がりを通して、達成感を味わえるような機会も設けている。	実施した支援内容や活動内容等の評価や振り返りを定期的に行い、職員間での情報共有をして支援の質の向上を図っていく。また、個別の特性に応じた微調整や補助ツールの充実を図っていく。
3	連絡帳やLINE、送迎時の直接的なやり取りを通じ、利用時における出来事や、お子様の小さな変化などを保護者の方へ迅速にお伝えすることが可能である。	活動内容や食事、排泄などを多角的な視点からその日の様子を連絡帳を用いて記録している。また、送迎時などにお子様の活動中の様子を直接お話し、文章だけでは伝わりにくい喜びや表情の変化などを職員の言葉で具体的にお伝えするようにしている。	連絡ツールを用いたやり取りが一方通行にならないよう、「ご家庭で困っていること」や「お子様についての悩み」などをより気軽に保護者の方が発信できるように、問いかけや応答的なやり取りを意識的に増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	公園などの公共施設は利用しているものの、児童館や地域施設等の利用や地域住民や他団体との直接的な関わりが少なく、児童が多様な人と接する機会が限定的になっている。また、事業所内での活動に留まりがちであるため、地域との交流する機会が十分に確保できていない。	屋外活動や地域交流を行う際、児童の安全を最優先に考えるため、手厚い引率体制の構築に時間を要してしまい、事業所内の活動中心となってしまう。また、地域で開催されるイベント情報の把握や、連携先となる地域団体(自治会や他の福祉施設等)とのネットワーク構築がまだ途上であることが課題となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 地域のイベントへの参加をお子様の特性に配慮した「無理のない範囲での地域交流」を検討していく。 地域の関係機関と積極的に情報共有を行い、共同イベントの開催なども検討していく。 地域の店舗での買い物体験や地域施設の利用など、公共の場でのルールやマナーを実践的に学ぶ機会を増やし、社会参加を支援していく。
2	ご利用児童に対し、希望に沿った柔軟な受け入れが困難な場合や、定員が満員なため新規受け入れをお断りすることがある。	一人ひとりの特性に合わせた支援や、事故のない安全な見守り体制を維持するためには定員や人員配置に限りがあり、希望曜日や時間帯に調整することが困難である。	<ul style="list-style-type: none"> 欠席連絡や利用児童の情報を迅速に集約し、キャンセル待ちをされている保護者へ速やかにご案内できる体制を整える。 待機となる場合も丁寧な説明と情報提供を行い、保護者の不安軽減に務める。 地域の相談支援事業所と空き情報を共有していく。
3	保護者同士が交流や情報交換を行なう機会が確保できていない。	日々の支援業務を優先する中で、保護者交流の場の企画・運営する体制が整っていないかった。	<ul style="list-style-type: none"> 今後はスタッフ主催のお祭り等の行事を企画し、親子で参加できる交流の場を設けることを検討していく。 保護者が気軽に参加できる雰囲気を中心掛け、今後も交流機会の継続的な実施を検討する。